

# くまもと面白漫遊記

～大村誠＝広報特別委員のおすすめのこの町・この人～

## No.9 上益城地区

14年目の廃油石けんづくりは  
食肉のミンチ機で竹炭を粉にして作った  
自慢の“竹炭石けん”  
元気なお母さんたちの手づくり石けんは、  
甲佐町の川をきれいにしようという  
故郷への思いから始まりました…。



甲佐町商工会女性部の皆さん  
(手前から 赤崎部長・佐野副部长)  
(後ろ左から 大村さん・西村元部長)



“絶賛発売中”の竹炭石けん

廃油を利用した石けん作りは、十数年前から一種のブームのように全国的な広がりを見せていた。でも、いつのまにか“環境にやさしい石けん作り”は根気をなくし、続けているグループも数少なくなかった。そんな中、甲佐町のお母さんたちは頑張っている。頑張るだけでなくチャレンジしているのだ。今年6月、廃油石けん独特の臭みが気にならず、アトピーやあせも、湿疹等に効果があり、汚れもよく落ちるし肌もしっとりするという「竹炭石けん」を完成させた。

水の里・甲佐町の生命線でもある大井手川をきれいにしたいという、故郷への思いから始めて14年目、ちょっとだけ自慢顔のお母さんたちがいる。

## お母さんたちの故郷への思いから 生まれた石けん作り。 甲佐町商工会女性部の挑戦

やな場、井戸江峡、破魔呑の湧水など豊かな自然と水に恵まれた“花と緑と鮎の町”甲佐町。町の中心部を流れる大井手川には鯉が泳ぎ、夏の「あゆ祭り」や「手作りいかだ下り大会」には多くの人を訪れ、甲佐町の魅力を満喫している。そんな甲佐町にも危機が忍び寄った。昭和62年、今から14年前、大井手川が生活廃水によって汚れ、放流した鯉が皮膚病にかかり死んでいた。

その光景を目の当たりにして、「川をきれいにしよう」と立ち上がったのが甲佐町商工会女性部だ。『故郷の川を守るため、今、自分たちができることは何か?』お母さんたちは、廃油を利用した石けん作りに取り組んだ。

お母さんたちのはじめた〈小さな挑戦〉は、大きな故郷への思いに支えられ、やがて、確かな実を結ぶ……。



取材をする 大村特派員

甲佐町の一角、商工会女性部の石けん作りは、田中建設(株)の空き倉庫で行われている。田中建設の好意により提供してくれたもので、14年間、商工会女性部の石けん作りの拠点となっている。甲佐町商工会女性部は現在、30歳代から70歳代まで62人。その中から今回、集まって頂いたのは、元部長で石けん作りがスタートした当時の部長・西村悦子さん、現在の部長・赤崎麻利子さん、副部長で石けん作りのリーダー・佐野仁美さん、女性部のメンバーで大村誠一広報特派員の奥様・大村いづみさん、そして、商工会の補助員・三芳智代さん。石けん作りをはじめた当時の話から、14年目の成果“竹炭石けん”誕生までの奮闘をうかがった。

大村特派員 Q：石けん作りをはじめたキッカケは？

西村悦子さん A：私が部長の頃、14年前の昭和62年当時、まだ下水道がなく、大井手川には生活廃水が流れ込んでいました。大井手川の鯉が皮膚病にかかり、死んでいるんです。



とにかく、川をきれいにしようという思いで女性部で話し合いました。

“自分たちのためになるボランティア”をとということで当時、石けん作りで琵琶湖をきれいにする取り組みが行われていた話を聞いていたので、早速、廃油を使った石けんを自分たちで作ってみよう、という結論になりました。

まずは、自分たちで使うのが目的、さらに町に広げていこうと商工会で販売することにしました。

大村特派員 Q：どんな方法で廃油石けんを作っていたんですか？

西村悦子さん A：資料を元に、当時の甲佐町婦人会ではじめましたが、当初は、苛性ソーダ（水酸化ナトリウム）とお店から集めた廃油を棒で1時間かけてかき混ぜ、ビニール袋を敷いた板の魚箱に流し込んで乾かし、半生のうちに包丁で切るという方法で作っていました。

「板」が発する熱で溶けるなど、本当に大変な作業でした。

その後、阿蘇郡小国町で進められていた石けん作りを参考にステンレスで流し器などを作りました。

廃物利用をして、すべて手作りで行いました。

大村特派員 Q：産みの苦しみ、大変なご苦労があったようですが、廃油を利用した石けんは売れましたか？

西村悦子さん A：当時、1個60円で、毎年5千個売れました。

大村特派員 Q：「川」の方の結果は？

西村悦子さん A：川は少しずつきれいになりましたし、この10年、鯉の病気もありません。

赤崎麻利子さん A：鯉たちが病気もせずになれるのは、石けん作りを始めた皆さんの奮闘があったからこそ。14年間、積み重ねられた努力のたまものだと思います。



## 廃油石けん独特の臭み解消！ 竹炭石けん誕生！ 竹炭石けんを甲佐町の顔にしたい。

商工会女性部の石けん作りは、「川」をきれいにし、町の人々の環境に対する啓蒙に一役買い、故郷を見つめ、故郷を守る思いを改めて強くさせる、原動力となった。気負わず、コツコツとやってきた石けん作りは、その目標をある程度、達成したかのように思えるが、女性部の挑戦はそれだけに終わらなかった。「独特の臭みが気になる。」廃油石けんの弱点に取り組んだのである。弱点解消、それは石けんの原料に「竹炭」を混ぜるアイデアだった。

『竹炭石けん』は半年間の試行錯誤の上、今年7月に完成！その無添加にこだわった、お母さんたち自慢の石けんは、気になる臭みもなく、美容にも効果を発揮すると好評！お母さんたちが生んだ14年目の“逸品”となった。

大村特派員 Q：「竹炭石けん」はどんな風に誕生したのですか？

赤崎麻利子さんA：廃油石けんは、茶碗洗いや洗濯の部分洗いには効果抜群でしたが、その独特の臭みが気になって普及拡大の妨げとなっていました。

昨年秋、商工会補助員の三芳さんが「竹炭」を入れるアイデアを思いつきました。

三芳智代さん A：「竹炭」は脱臭効果があるということで、ご飯に入れたり、冷蔵庫に入れたりしているので、石けんの原料に竹炭を混ぜたら臭いが気にならないかも知れないと思ったのです。

赤崎麻利子さんA：早速、試してみようと思いましたが、それからが大変でしたね。

大村特派員 Q：どんな点が大変でしたか？  
また、どうやって竹炭石けんは作るん



中央が三芳さん



竹炭ミンチ機



ステンレスの容器に流し込まれた石けん（右：竹炭石けん）

ですか？

佐野仁美さん A：まずは、「竹炭」をどうやって粉にするのか？

カナヅチで竹炭を砕き、これも廃物利用ですが、食肉のミンチ機で竹炭を粉にしました。



炭の分量を何度も変えたり、試行錯誤を繰り返した末、竹酢液も加えた「竹炭石けん」が今年7月にできあがりました。

### 【竹炭石けんの製作作業】



①水1.9ℓを入れる



②苛性ソーダ（水酸化ナトリウム）1kgを入れる



③かき回す



④廃油を入れる



⑤かき回す（これで通常の石けんは→型に流し込む）



⑥竹炭を入れる



⑦竹酢液を入れる



⑧攪拌



⑨型に流し込む

大村特派員 Q：竹酢も加えた「竹炭石けん」の効果は？



佐野仁美さん A：甲佐岳の孟宗竹からできた竹炭、竹酢を使っています。油の臭いも気にならないし、竹酢はアトピー、あせも、水虫、湿疹等に効果があるようです。汚れもよく落ち、毛穴もスツキリ、体はしっとり、洗髪もリンスしなくてもしなやかです。クレンジングクリームもいりません。汚れがとれて、油分が残ってつっぱりがなく、お肌がしっとりします。また、泡切れも素早く、すすぐも簡単です。

佐野仁美さん A：もちろん、無着色、無香料、凝固剤など一切、使用していないので、湿気が多いと溶け出しますが、無添加でなくては意味がありません。湿気のないところで保管すれば、長持ちします。

大村特派員 Q：好評のようですね？

赤崎麻利子さん A：少しずつ口コミで広がって、売れてきました。熊本日日新聞に掲載されて以来、地元はもちろん、阿蘇、玉名、熊本市内などから問い合わせや注文が来るようになり、郵送販売しています。市販の「竹炭石けん」なら1000円はしますが、うちのは350円ですから…。

大村特派員 Q：今後は？

佐野仁美さん A：今後は「竹炭」作りから挑戦したいと思い、今、試作中です。また、竹炭石けんを配布して、多くの方にその良さを知ってもらいたいと思います。

赤崎麻利子さん A：長年にわたって、受け継がれてきた女性部の活動が実を結びつつあることを実感しています。台所から流せば、海や川を汚し、微生物を死なせたり、魚や水中の生き物たちを苦しめる廃油。その廃油に手を加えることで、地球に優しい石けん生まれ変わります。きれいな水、きれいな川は、甲佐町の宝です。



未来に残すためにも手作りの「竹炭石けん」を甲佐町の「顔」にしたい、その思いで石けん作りに励んでいます。

お母さんたちの作った「自然にやさしい、お肌にやさしい竹炭石けん」は、パッケージも手作り。そのほのほのとしたパッケージからお母さんたちの思いが伝わってくる。家族がいる故郷、子供がいる故郷だから大切にしなければならぬ…それが「地球を守る」源であることをお母さんたちは行動でメッセージしてくれている。「竹炭石けん」に込められたお母さんたちの故郷への願いは、どこにも負けない。

竹炭石けん 1個 350円  
手作り石けん 1個 80円

【問い合わせ】 甲佐町商工会女性部（商工会内）  
☎096-234-0272  
上益城郡甲佐町岩下105-2



#### ◆読者プレゼント

「甲佐町商工会女性部」のご好意により、読者の方3名様に『手作り石けんと竹炭石けんセット』をプレゼントします。

ご希望の方は、「竹炭石けん希望」とお書きの上、氏名、住所、会社名をご記入し下記のところまで、おハガキでお申込下さい。

希望者多数の場合は、抽選にさせていただきます。

〒862-0976

熊本市九品寺4-6-4

熊本県建設業協会 KUMAKEN

「竹炭石けんプレゼント」係まで